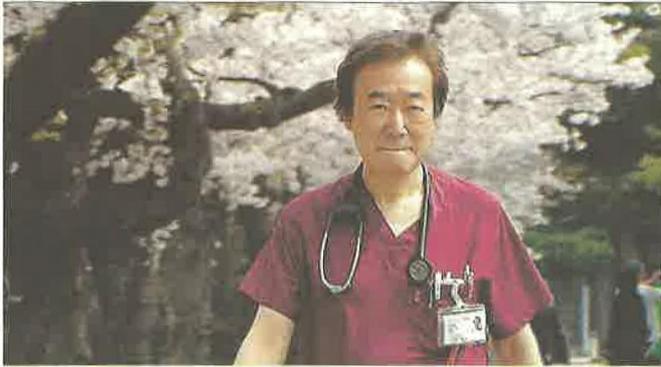


第3種郵便物認可

ひと

60歳で医師免許を取得し訪問診療に励む内科医

みずの たかしの
水野 隆史 さん(67)



青森県十和田市にある訪問診療専門の「とわだ診療所」所長を務める。「先生が来るの楽しみで」と心待ちにされ、訪問は月1000件ほど。「使命というか、何のために生まれてきたのか。医者を選んで良かったなど。人のために少しでも役立つことがある」

東京大農学部を卒業し、農林水産省の官僚に。安積雅子さんという60代研修医の新聞記事を読んで50歳のときに転身を決断したが、医学部受験の面接で年齢の壁が立ちだかかった。「医者として何年働けると思うのか」「若い人の芽を摘む」と言われ、帰りの飛行機で涙したこともあった。

月に1度、妻と歌舞伎座の席をとり、帰りに居酒屋で息抜きをした。「失敗してもなかなかできない経験をしたと。そう思ったら楽しいんじゃない？」という妻の言葉を励みに5年間で延べ50大学を受験。金沢大医学部に合格した。十和田市立中央病院で研修医になり、街並みやスタッフの温かさにひかれ、そこで内科医に。「生きていてよかったと思えるお手伝いをしたい」と訪問診療に向き合い、病院付属の今の診療所を65歳で任された。

安積さんを3年前に訪ねて憧れを強くした。84歳、現役の安積さんからの、宝物にしている年賀状がある。「細く長く頑張って」。人生100年時代。還暦で歩み始めた医師の道はこれからだ。

文・中島修平 写真・青森朝日放送提供

「還暦で歩む医師の道」生き様伝える

ABAの番組にギャラクシー賞奨励賞



訪問診療する水野隆史医師＝青森朝日放送提供

青森朝日放送(ABA)が制作し、3月に放送されたドキュメンタリー「還暦で歩む医師の道」が2021年度のギャラクシー賞テレビ部門の奨励賞に選ばれた。制作にあたった中島修平ディレクター(36)は「何歳になっても夢や目標、人生を諦めないでほしいということをお伝えした」としている。

作品の主人公は、50歳で医師になるかと決意し、60歳で医師免許を取得した水野隆史さん(67)。65歳で十歳からドキュメンタリー制作に本格的に取り組み、これまで7本の作品を手がけている。今回の作品について、中島さんは「定年制度が見直される中、『人の役に立ちたい』と思いつける水野さんの真つすべな生き様を伝えたい」と話した。

15日に再放送

作品は15日午前9時55分から、ABAで再放送されます。また、水野さんの「ひと」を総合2面に掲載しています。